

# 埼玉県総合リハビリテーションセンターだより



## ＜今号の内容＞

「ガイドメイク講座」を開催しました……………1
新規採用医師紹介 ………………2
軽度認知障害（MCI）を知っていますか?……………3
スポーツって「非日常」も、おもしろい!……………4



## ＜ランチタイムセミナー情報＞

過去のセミナーも随時公開中！

発行：埼玉県総合リハビリテーションセンター  
〒362-8567 埼玉県上尾市西貝塚148-1  
TEL 048-781-2222

## 「ガイドメイク講座」を開催しました

今回は、視覚に障害のある方にご自身で実践できるメイク法をレクチャーし、加齢対策やメイクを通じて何かに参加したいという気持ちを促すきっかけづくりのために資生堂主催の開催となりました。



「ガイドメイク」とは性別、年齢、国籍、障がいの有無にとらわれず、すべての方に、スキンケアやメイクアップによる「化粧のちから」を楽しんでいただくために資生堂が始めたものです。

開催当日は、当センターの視覚訓練を利用頂いている方を中心に、女性4名、男性2名の方が参加されました。

資生堂のメイク講師の方々に、指先の感覚を活用した独自の「ガイドメイク」技術を丁寧にレクチャーして頂きました。

視覚障害の方々をサポートするために工夫されたメイク方法の説明、女性参加者はスキンケアと簡単なベースメイク、アイシャドウの塗り方、眉の書き方といった実践的な内容を学びました。男性参加者向けには、スキンケアの方法や簡単なハンドマッサージ、頭皮のマッサージといった、日常生活で役立つスキルが紹介され、スキンケアに慣れていない方でも気軽に取り組める内容となっていました。参加者の方々は、始めは緊張していたようですが、講座が進むにつれて和やかな雰囲気が広がり、参加者同士でアドバイスを交換しあうなど、自然とコミュニケーションが生まれる場面も多く見られました。また、参加者の皆さんのが表情が明るくなり、いきいきとしていたのが印象的でした。講座終了時には、「楽しかった」「家でもやってみたいと思う」といった感想が寄せられ、メイクやスキンケアの楽しさを体感し、自分でも実践できる自信を深めている様子でした。資生堂のスタッフの皆様、素敵なお時間をありがとうございました。



## 新規採用医師紹介



氏名：西田 陽一郎（にしだ よういちろう）  
職名：医療局長  
診療科目：脳神経内科・リハビリテーション科  
卒業大学：東京医科歯科大学（現 東京科学大学）  
出身医局：東京医科歯科大学（現 東京科学大学）脳神経内科  
研究・専門：認知症・脳卒中・神経免疫疾患



### ＜自己紹介＞

初めまして、2025年10月1日に着任しました西田陽一郎と申します。  
これまで大学病院をはじめとした医局の連携病院の脳神経内科での診療と、様々な神経難病の基礎・臨床研究に従事して参り、2009年6月から2011年8月までは米国ロチェスター大学でアルツハイマー病の基礎研究に邁進しておりました。帰国した2011年9月から2014年3月にかけて埼玉県総合リハビリテーションセンターで働くご縁をいただき、当時も大変お世話になっておりました。  
その後の医局人事で東京医科歯科大学（現 東京科学大学）脳神経内科に異動し、気が付くと随分と長い間、大学で診療・研究・教育・管理運営に携わって参りましたが、この度、約10年ぶりにリハセンに戻って参る機会を頂き、大変嬉しく思っております。  
10年ぶりにリハセンスタッフの皆さんやリハセンの建物に再会して懐かしく思いますが、当時よりもはるかに高度に進歩している当院の診療状況に身の引き締まる思いです。  
患者さんや利用者の皆さんのご期待に沿えるよう、スタッフの皆さんと協力して努力して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



氏名：平松 永彬（ひらまつ のぶあき）  
職名：医員  
診療科目：リハビリテーション科  
卒業大学：順天堂大学  
出身医局：順天堂医院 リハビリテーション医学  
研究・専門：リハビリテーション医学全般



### ＜自己紹介＞

このたび、10月より当センターに赴任し、回復期リハビリテーション医療の研修をさせていただいております平松と申します。  
これまで急性期病院で脳卒中をはじめとする神経疾患含め、幅広い疾患に対するリハビリ診療に携わってきましたが、回復期の現場に立ち、身体機能の改善だけでなく、退院後の生活再建を見据えた支援の重要性を改めて実感しています。  
患者さんが再び自分らしい生活を取り戻すためには、医学的安定化や機能回復のみならず、家庭環境や社会的背景、心理的サポートを含めた総合的な視点が欠かせません。  
現在は多職種チームの一員として、看護師・療法士・ソーシャルワーカーなど各職種と協力しながら、在宅復帰に向けたリハビリ計画の立案と支援を行っています。  
日々の診療を通して、患者さんやご家族との信頼関係の大切さを改めて感じるとともに、自らの説明力・調整力の向上を目指しています。  
今後も臨床経験を重ねながら、より良いチーム医療と地域連携の実践に努めてまいります。  
どうぞよろしくお願ひいたします。

## 軽度認知障害（MCI）を知っていますか？

### 軽度認知障害（MCI）とは？

軽度認知障害（MCI）とは認知症の前段階を指し、認知機能が低下していることを感じても、日常生活に支障が生じるほどではない状態です。MCIの多くはアルツハイマー病によるものと言われています。

例えば、新しい家電の使い方を覚えるのに時間がかかる、前日の夕食の内容が思い出せない、もの忘れの自覚はあるけど他人事のように感じる、仕事上のミスが増えた、メモをとることが増えたなどがMCIで見られる症状と言われています。



実は、早期のMCIでは本人の自覚があるケースが多いものの、進行によって認知機能が落ちていることに気付きづらくなる傾向があります。進行によって記憶についての本人の自覚と家族の評価に差が生まれていき、その差は進行とともに大きくなるとも言われているところです。

いわゆる認知症は正常な認知機能まで戻ることはないものの、MCIは認知症へ移行する場合と正常な認知機能に戻る場合があります。ついつい「年齢のせい」と考えたくなるもの忘れの段階で、しっかりと原因について調べることが重要です。

### 認知症の治療について

根本的治療が困難とされていた神経変性疾患による認知症の中で、アルツハイマー病によるMCI、軽度認知症では治療が開発されました。

アルツハイマー病ではアミロイド $\beta$ と呼ばれる物質が蓄積することによりタウ蛋白の蓄積が加速し、認知症の進行が速くなります。このアミロイド $\beta$ を除去する抗アミロイド抗体療法が可能となり、現在レカネマブとドナネマブという薬剤での治療が行われているところです。

この治療は、早期であれば認知機能低下を抑制でき、軽症である方が効果は高いと言われています。

### 早期発見・早期治療を

軽度のもの忘れは「年のせい」「年齢相応」と考えてしまいがちです。もし、脳のMRI検査などを行ったとして、アルツハイマー病が一定程度進行した海馬の萎縮が見つかることがあります、MCIを発見することは困難です。「MRIで異常がないから安心」と思っても、実はアルツハイマー病の早期段階だったという可能性もあります。

アルツハイマー病には、原因となるアミロイド $\beta$ を調べるアミロイドPETや脳液検査といわれる検査があります。認知症の60%以上はアルツハイマー病が原因と言われていますので、こうした検査で原因を調べられることはぜひ知っておいていただきたいと思います。

「最近もの忘れが多いな」「年のせいかしら」といった自覚のある時期に、MCIを見逃さず、早期発見・治療を行えば、治療における効果が得られやすくなります。



### アルツハイマー病治療外来を開設しています

当センターでは、アルツハイマー病の治療薬であるレカネマブ、ドナネマブによる治療を行っています。認知機能検査や脳MRIなどによる投与対象に適合するかの検査、実際の投与を当センターで行うことができます。

受診を希望される方は、事前に電話で「アルツハイマー病治療外来」希望とお伝えいただき、予約の上来院いただくようお願いします。

※なるべくかかりつけ医等からの紹介状・診療情報提供書をお持ちください。

## スポーツって「非日常」も、おもしろい！

### 全国障害者スポーツ大会に埼玉県代表選手として5名が参加



リハセんメンバー 集合写真

左から、長谷川さん、齋藤さん、中村さん、清野さん、清水さん

車いすの選手が、陸上競技の走種目で使用する「レーサー」は、高速走行を目的に設計されています。日常の車いすとは座り方、こぎ方が異なるため、競技を始めた頃はとまどいも多かったようです。埼玉県では障害者スポーツ協会と当センターが協働で「競技用車いす等レンタル事業」を行っています。普段と違う「非日常」の競技用車いす。興味のある方は、健康増進担当までお問合せください。

10月25日から27日に、滋賀県で「わた SHIGA 輝く障スポ 2025」が開催されました。健康増進施設のご利用者から、4名が陸上競技に、1名がフライングディスクに出場しました。埼玉県での選考会（ふれあいピック春季大会）で選ばれた5名です。全国大会初出場となる3名を含め、全員がメダルを獲得することができました。



陸上競技 100mの長谷川さん  
雨の中レーサーで疾走

### 障害者支援施設では「体育祭」が大盛り上がり！

11月19日（水）に、障害者支援施設入所者対象の体育祭を開催しました。定番の玉入れや選抜リレーの他に、アキュラシーやボール相撲などを実施しました。



全競技を終えて ハイチーズ

ドリブルリレーでは、右側に麻痺のある選手は、車いすを左脚でこぎながら、左手でバスケットボールをドリブルします。車いすにボールをぶつけてしまうと、時間のロスになります。車いすの車幅と自分の身体、ボールの位置関係を把握して、効率よく身体を動かすトレーニングになります。本番では皆さん、練習の成果を発揮して、ミスのない華麗なドリブルでバトンとなるボールを繋いでいきました。

参加者のKさんは、「学生時代は、いい思い出がないけど、今回の体育祭は練習から本番まで楽しかった。みんなが活躍できて、とても良い思い出になった。」と感想を話してくれました。

健康増進担当では今後も、日常の体育訓練やトレーニングの他に、「非日常」のスポーツ活動もサポートしていきます。